



日本共産党
参議院議員

吉良よし子 国会報告

2022
9



国会、ひらけ

「最低賃金ひきあげて」「同性婚を実現して」
——夏の参院選では、山添拓さんといっしょにたくさんの声をきいてきました。

「子どもがコロナで高熱。ぐったりしているのに119がつかまらない」
「病院が見つからず、救急車で呼吸停止・・・」
——コロナ第七波、悲痛な声がネット上にあふれています。

安倍元首相の銃撃事件をきっかけに、
統一協会問題、国葬問題、
この国の民主主義の根幹が揺るがされています。

それでも、岸田首相は参院選直後、
夏の臨時国会を3日間で閉じてしまいました。
国民の声を置き去りにするその姿勢は、安倍政権や菅政権と全く同じ。
改憲の危険性も高まっています。

憲法は変えるんじゃなく、憲法をいかした政治こそ。
私は、引き続き、文教科学委員会、決算委員会で、
あなたの声を政治に届けるために、がんばります。

吉良よし子



3月16日 参院文教科学委員会

若者が希望してる政治をめざして

一緒にかえよう！

政治は
何をして
くれますか？

@オンライン政党討論会

U30世代の 声を聴く

賃金を引き上げるには？

将来年金もらえる？

フリーランスを保護してほしい

LGBTQ 政策を前に進めて

6月20日ハフポスト主催オンライン政党討論会で。



参院選直前の6月20日、
ハフポスト主催のオン
ライン政党討論会でU30の
若い世代の疑問や質問に答
えたところ「いいね！」反応
がたくさん。“若者は政治に
無関心”というのは過去のも
のだと実感しました。

「若者と高齢者の間の分断をあ
る政治を変えて、**軍事費よりも暮
らしに予算を。内部留保課税で
最低賃金1500円が実現**できます。
フリーランスを保護する法整備をは
やく。」**「同性婚の実現**もはやく。」

「生徒指導提要」改訂を力に校則変えよう！

@校則問題シンポジウム



「人権、人格を否定す
るような校則は望まし
くない」
萩生田光一 文部科学大臣(当時)
2021年3月16日 文教科学委員会

4月30日に日本共産党が開催した「校則
シンポジウム」に司会として参加。国会の質
問などで、人権侵害の校則見直しへ政治を
動かしてきたことを報告しました。

国会の質問を通じて**“人格を否
定する校則は望ましくない”** 答弁を
引き出して、校則見直しを前に進
める「生徒指導提要」改訂へ、道
を開くことができました。



4月30日校則シンポジウムで参加者と。

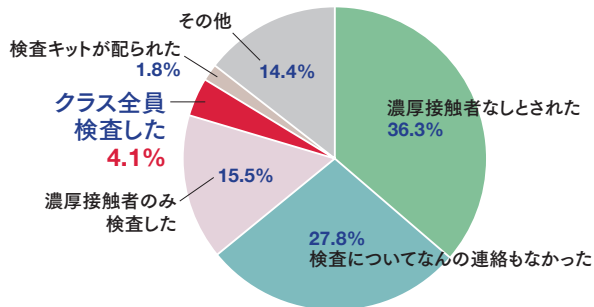
シンポジウムのアフタートークでは参加者
から「校則を変えるまであきらめない」「教師
も一緒に力を合わせたい」など、前向きの
感想がたくさん出されました。校則見直しの
動き、さらに前に。

あなたの声が政治を動かしています

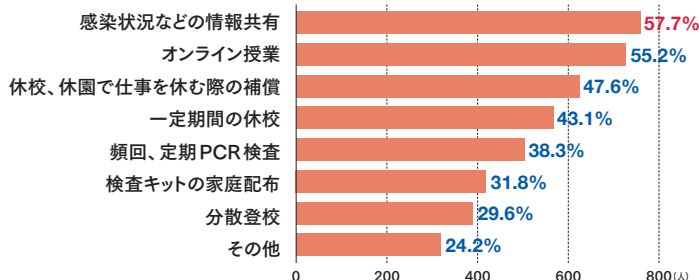
1357人のアンケートをもとに学校のコロナ対策について質問

吉良よし子事務所が2/5～2/20にネット上で実施。保護者1357人が回答。

陽性者が出た際の学校や園での検査の対応について



学校や園で、必要だと思う感染対策はなんですか？



感染者が出ても、検査されない

濃厚接触者なし、検査なしで終わり

クラスメートが感染してもだれも検査を受けていません

不安 検査もしないまま、学校を続けていいのでしょうか

情報共有してほしい

感染者が出ても知らされない

連絡が来るのは自分のクラスが学級閉鎖となった場合のみ

隣の席の子が感染しても知らされない

学校で何人の陽性者がいるかわからない

基礎疾患のある自分の子を学校に行かすべきか判断できない

3月8日文教科学委員会でSNSを通じて集めた保護者アンケートをもとに、学校でのコロナ対策について質問しました。文科大臣は、学校での検査拡大については否定的でしたが、情報共有については「検討したい」と答弁。

成果

4月1日に、文科省が学校のコロナ感染症対策マニュアルを改訂しました。

✓「学校において感染者が発生した場合、保護者に対して必要な情報を提供することは重要です」

✓共有すべき情報の例
「感染者の発生状況」「臨時休業の実施予定」「臨時休業時の学習支援方針」など

質問に基づいて、新たな記述がマニュアルに追記されました。



4月25日、参院行政監視小委員会

後遺症マニュアル改善へ

コロナ後遺症患者を見捨てるな！

4月25日、増え続けているコロナ後遺症について、参院決算委員会と行政監視委員会で質問しました。適切な治療につながらない、後遺症は傷病手当（国保）の対象外とされ救済されないなどの実態を告発。臨床現場で間違いが指摘されている後遺症「診療の手引き」の改善を求めました。

成果

4月28日に「診療の手引き」が改訂されました。

✓「痛み」などの症状が時間経過とともに改善しない場合もあり、「心身に不調をきたして慢性化する可能性もある」こと

✓「疲労感・倦怠感」がある場合のリハビリなどの運動負荷が「症状を悪化させることがある」こと

✓職場復帰や就労上の配慮、労災や診断書書類に役立つ具体事例を明記

質問で指摘した内容が盛り込まれました。

「働き方」問題の論戦

① フリーランスの働き方 あまりに酷い！

単価300円!?! / 時間

長時間過密労働まん延

出産後、麻酔から覚めたらすぐ復帰

などの実態を告発

2月28日 参院予算委員会



2月28日、最低限度の報酬額の設定や産休、育休制度導入など、人間らしく働くためのフリーランスの保護を求めました。

② 映画、演劇界の性暴力・ハラスメントの根絶へ。

映画、演劇界で性暴力の告発が相次いでいることをうけ、5月16日、出演者に対する圧倒的な力関係を背景にした性暴力は犯罪とするなどの刑法改正と、映画、演劇フリーランスに対するハラスメント防止ガイドラインの作成や講習、相談窓口の設置を国の責任で行うことを厚労大臣に求めました。

③ 部活動顧問押しつけ止めて！

部活動は「必ずしも教師が担う必要ない」、「パワハラは絶対に許せない」文科大臣の答弁引き出す

教師の長時間労働の一因となっている部活動。4月21日「顧問を断ったらパワハラされた」という実態を質問。文科大臣は「パワハラはあってはならない」と答弁。教員のみなさんから「この大臣答弁を通達してほしい」との声も広がっています。

7月26日部活動問題の解決を目指す教職員全国組織（PEACH）のみなさんとの文科省要請

